

Title	既刊分紹介
Sub Title	
Author	
Publisher	三田哲學會
Publication year	1996
Jtitle	哲學 No.100 (1996. 3) ,p.351- 410
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00150430-00000100-0351

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

既刊分紹介

第一集

- 川合貞一 Transszendentale Methode…………… 1-90
板垣鷹穂 歴史學的勞作と歴史家の個性…………… 91-138
青木 巖 プラトーン的美と藝術とに對する考察……………139-188
横山松三郎 直接經驗の觀察と觀察態度……………189-243
船田三郎 フイヒテの初期に於ける國家思想……………245-287

第二集

- 高橋文雄 空間の問題—カント及びコエンの理解—…………… 1-32
新館正國 社會學の一道標
—Max Scheler の文化社會學の本質と概念—
…………… 33-179
衣斐久雄 行動の性質
—マックス・エーバーの理解的方法に依る考察—
……………181-221
小林澄兄 ペスタロッチの教育原理……………223-279

第三集

- 加田哲二 社會學者としてのロレンツ・フォン・シュタイン
—シュタイン研究序論—…………… 1-88
板垣鷹穂 美術史に於ける價值評價の問題…………… 89-142
茅野蕭々 ショオペンハウエルによる悲劇性と現今
—オスカア・ヴァルツェルによる—……………143-182
川合貞一 Psychologische Methode……………183-287

第四集

- 常盤大定 程子と佛教…………… 1-75
小柳司氣太 朱子哲學の研究に於ける二點の考察…………… 77-118
青木 巖 デカルトよりヴィコへ……………119-164
守屋謙二 抽象の美
—ウォーリンガー學說に依る一つの展望—……………165-214
城戸幡太郎 批判的内省
—心理學的方法についての一考察—……………215-233
新館正國 マックス・シェイラア教授逝く……………235-275

第五集

- 船田三郎 歴史哲學の可能に關する問題…………… 1-32
横山松三郎 識態と覺…………… 33-64
栗林 茂 ヘーゲルの青年時代…………… 65-114
Theodor Sternberg
Der Comparatismus (vergleichende Methode)
und die Struktur der Wissenschaft …………… 1-79

第六集

- 川合貞一 倫理學に於ける Sollen の問題 …………… 1-57
青木 巖 トーマス・アクイナスの社會並に國家思想…………… 59-145
西谷謙堂 ペスタロッチの社會哲學思想と社會教育思想……………147-234
横山松三郎 視的把握に於ける露出時間の影響……………235-248
宮下正美 Psycho-paidology に於ける解釋について ……………249-268
Theodor Sternberg
—Der Comparatismus (vergleichende Methode)
und die Struktur der Wissenschaft.
(Zweiter Teil) …………… 80-109

第七集

- 島原逸三 新實在論序説…………… 1-11
- 新館正國 自然と自由
—カント・歴史形而上學の一考察—…………… 13-138
- 西脇順三郎 概念と表現……………139-159
- ベンノー・エルドマン (原著者)
後藤純三 (譯者)
唯物論的歴史觀の哲學的諸前提……………161-230

第八集

- 小柳司氣太 東洋哲學思想の基調…………… 1-24
- 高橋文雄 デカルトに於ける世界觀成立の秘密…………… 25-104
- 守屋謙二 ヴェルフリンの様式概念……………105-168
- 青木 巖 パルメニデスの哲學に就て……………169-187
- 星野重顯 パルメニデス篇について……………189-214
- 栗田録治 兒童の色彩好惡……………215-239

第九集

- 常盤大定 大乘世界觀の基調としての假…………… 1-37
- 加田哲二 明治初期に於ける社會學思想…………… 39-132
- 青木 巖 アリストテレースの問題法とヘーゲルの辯證法
……………133-170
- 栗林 茂 生の哲學者としてのヘーゲル……………171-190
- 宮崎友愛 純粹意志に就いて……………191-259

第十集

- 橋本 孝 シェイラァ倫理學に於ける人格の問題…………… 1-74

山口等澍	ヘーゲル哲學に於ける結合の概念……………	75-102
衣斐久雄	群の概觀……………	103-134
向井鏌一	全體主義に就いて……………	135-171
栗林茂譯	解釋學の成立（ディルタイ）……………	172-192
友田善二郎	色彩の空間的構造と感情價值……………	193-237

第十一集

Theodor Sternberg

	—Begriff der Philosophie……………	1-95
常盤大定	見性の思想的考察……………	1-46
小柳司氣太	利瑪竇と明末の思想界……………	47-73
星野重顯	プラトン對話篇「テアエテトス」……………	75-111
山本万二郎	蓋然判斷に就いて……………	113-137

第十二集

新館正國	社會生活の對象論的構造……………	1-46
田中吟龍	リット教育學の基礎的考察……………	47-76
中山一義	「學制」頒布前後事情……………	77-146
向井鏌一	宗教社會學序說……………	147-171
西谷謙堂	兒童に於ける色と形の知覺……………	173-203

第十三集

守屋謙二	日本視の問題……………	1-53
山本万二郎	リッケルト哲學思想の發展 —意味及び價值の概念を中心として—……………	55-177
松本正夫	述語論理の諸特性……………	179-247

第十四集

船田三郎	歴史哲學より觀たる唯物史觀……………	1-31
山口等澍	哲學的時間論批判……………	33-102
青木巖	希臘の所謂自然哲學者に就て……………	103-121
山本秀夫	大乘起信論の認識論的考察……………	123-159
小池喜代藏	觸空間に於ける距離比較判斷……………	161-181
横山松三郎		

第十五集

新館正國	社會と認識……………	1-41
宮崎友愛	シェーラーの哲學的人間學管見……………	43-97
星野重顯	プラトンに於ける魂の不滅……………	99-133
松本正夫	主語論理の研究……………	135-230
西谷謙堂	重量對比の實驗的研究……………	231-241

第十六集

山本万二郎	判斷意識について……………	1-66
青木巖	プラトン政治思想の序論……………	67-135
前田越嶺	セネカ學說批判……………	137-176
林銚藏	等重量の繼時的比較……………	177-237

第十七集

山本快龍	數論派の實有論……………	1-27
星野重顯	プラトン「メノン」研究……………	29-86
向井鏝一	宗教の社會學的特質……………	87-148
江口正一	シュライエルマッヘルの美學について……………	149-189
小島陽	色彩の記憶價值に關する一實驗的研究……………	191-203

第十八集

- 川合貞一 『歴史的なるもの』の本質…………… 1-72
青木 巖 ゼンティールレの哲學…………… 73-127
松本正夫 存在の論理學……………129-189
金子秀彬 形態の複雑性と其の把握時間……………191-208

第十九集

- 山本万二郎 認識論に於ける超越の問題—實存哲學的考察—
…………… 1-86
宮崎友愛 實質的價值倫理學に於ける價值客觀主義の限界
…………… 87-162
山本秀夫 大乘起信論の論理……………163-205
中河原通之 分割面知覺に關する—實驗的研究……………207-231

第二十集

- 小林澄兄 技術と技術教育…………… 1-40
佐原六郎 社會心理學の問題
—その史的概觀—…………… 41-126
星野重顯 プラトン「ユウチフロン」篇……………127-190
友田善二郎 射擊の的中率と呼吸との關係……………191-220
林 銈藏

第二十一、第二十二集 川合博士古稀記念特輯

- 船田三郎 史家として見たるヘルデル…………… 1-26
山本万二郎 認識者の主體性と認識の主體性…………… 27-118
松本正夫 辨證法論理の主體性格に就て……………119-193
橋本 孝 シェーラァ社會倫理學の基本問題
—Gesamtperson について— ……195-255

宮崎友愛	アリストテレスに於ける善の概念……………	257-327
新館正國	共同体 (Gemeinschaft) の概念……………	329-384
向井鏐一	宗教と道徳……………	385-444
横山松三郎	場の構造と感情 —絶対感情判断の相対性と恆常性—……………	445-465
中山一義	明治維新の教育政策の性格 —近代日本教育史序説—……………	467-509
小林澄兄	国民學校の理念……………	511-568

第二十三集

松本正夫	演繹的述語論理の分析性格に就て……………	1-117
澤田允茂	行爲的主體としての覺存……………	119-189
西谷謙堂	學童の虚偽……………	191-233
山田悌四郎	感情判断に於ける學習の効果……………	235-250

第二十四集

川合貞一	人倫の規範體系と社會の本質構造との關係……………	1-66
新館正國	社會秩序の論理……………	67-92
林 銈 藏	迷路學習に於ける概念の機能……………	93-113

第二十五, 第二十六集 船田三郎教授還曆記念特輯

新館正國	社會の起源……………	1-21
西谷謙堂	青年學生の精神的構造 —青年學生の宗教—……………	22-85
向井鏐一	文化受容の問題 —問題の素描—……………	86-128
山本万二郎	眞理について……………	129-152

峯村光郎	經濟法の現代法的意義……………	153-181
中山一義	信の現成 —道元の學道論—……………	182-227
松本正夫	歸納的述語論理の綜合性格……………	228-331
井筒俊彦	イブヌ・ル・アラビーの存在論……………	332-357
西垣堯安	記憶に及す感情の影響……………	358-395
佐藤望	豫備的態度の客觀的研究……………	396-446

第二十七集 復刊第一輯

橋本孝	復刊の辞	
松本正夫	價值論理の所屬範疇への基礎付……………	1-31
井筒俊彦	神秘主義のエロスの形態 —聖ベルナル論—……………	33-64
澤田允茂	デカルトと實存 —實存的思惟の本質及び歴史に関する研究—…	65-123
神山四郎	ボナヴェントウラの類比的直観……………	125-154
横山寧夫	浪漫主義と敬虔主義……………	155-191
村井實	ルソーの自然概念について……………	193-204
印東太郎	アイソモルフィズム—問題 —知覚された点の位置について—……………	205-241

第二十八集

宮崎友愛	「ブレンターノの倫理思想」 —実質的価値倫理學への途—……………	1-36
山本万二郎	「カントの哲学的方法論研究」……………	37-86
松本正夫	「仏教哲学とアウグスティヌスの時間論」 ……	87-100
高須裕三	「家族存在論の一考察」 ……	101-127

立野清隆	「ハイデッガーに於ける超越の問題」 —時間性よりする存在の構成—……………	129-157
佐野勝夫 秋山誠一郎	「向性検査に於ける『はい』『いゝえ』の示す向性度」 ……………	159-183
大出 晁	米國論理學界の二つの代表的近着書紹介 Hans Reichenbach, Elements of Symbolic Logic James F. Anderson, The Bond of Being ……	185-218

第二十九集

務台理作	実存と状況……………	1-23
山本万二郎	(承前) カントの哲學的方法論研究 (完)……………	25-66
大谷愛人	キェルケゴールの思惟方法 —主体性及びイロニーの概念の哲學的方法論的意味— ……………	67-98
立野清隆	ハイデッガーに於ける超越の問題 (承前) —時間性よりする存在の構成—……………	99-149
横山寧夫	独逸啓蒙主義の社会学……………	151-192
阿部隆一	學問 —山鹿素行の「大学」解—……………	193-249
横山松三郎	民主主義の理解	
小川 隆 斎藤幸一郎	—中学校・高等学校生徒の場合—……………	251-270

第三十集

山本万二郎	リッケルトに於ける —意味概念の認識論的及び存在論的解明とその批判— ……………	1-27
村井 実	教育作用の美的理解について (上) ……	29-50

三雲夏生	認識に於ける行爲の意味 —モーリス・ブロンデル研究その1—……………	51-70
箕輪秀二	「Cogito, ergo sum」に就いて —精神の確立と其の近代性—……………	71-102
小泉 仰	マックスシェーラーに於ける「愛」について…	103-126
横山寧夫	知識と社會体制（一） —知識社會方法論の展開と課題—……………	127-167
高須裕三	マキーヴァー「永遠平和への道」 —R. M. MacIver, Towards an Abiding Peace, New York, 1943.—……………	169-183
吉田俊郎	図形残効について……………	185-213

第三十一集

村井 実	教育作用の美的理解について（下）……………	1-40
横山寧夫	知識と社會体制 —特に近代社會体制に於ける知識の諸形態と 知識人の問題—……………	41-83
仲 康	文化とパァスナリティ —現代社會學の一断面—……………	85-114
小泉 仰	直観論的価値論をめぐる諸問題……………	115-142
箕輪秀二	聖トマス・アキィナス真理と虚偽に就いて（訳） ……………	143-189
林 銈 蔵	配色感情に及ぼす面積の効果 I ……………	191-222

第三十二集

橋本 孝	川合貞一先生を憶ふ……………	1-4
阿部隆一	川合貞一先生略年譜並著作目録……………	5-23
小林澄兄	ヒューマニズムと教育との関係について……………	1-27

山本万二郎	哲学的方法論の意義とその体型形成への一つの試み	29-68
三雲夏生	ベルクソンとブロンデルの哲學における道德と宗 教についての考察.....	69-94
横山寧夫	バロックの知識階層.....	95-129
仲 康	教育社會學への一道標.....	131-154
印東太郎	ピアノを用いて行つた把持曲線に関する解析的研究	155-172
久野麗		
佐野勝男	學級編成替えの交友關係並びに地位に及ぼす影響	173-218
関本昌秀		
大西久夫	弁別學習における形成過程の問題.....	219-253

第三十三集

小川 隆	心理学に於ける構成の問題.....	1-18
箕輪秀二	„L'objectivation des ideés” —トミスト認識論の一考察—.....	19-46
有働勤吉	聖トーマスに於ける存在・真理・認識の問題...	47-68
西村 皓	ディルタイと理念の歴史についての考察.....	69-103
仲 康	教育社會學への一道標 (続) —E. デュルケームの教育論とその批判—	105-132
宇野善康	視えることのメカニズム —明るさに関する知覚の諸実験を通しての随想的点描—	133-171
大出 晁	初等及び一般回帰函数の理論とその適用 —論理構造論研究 I—	173-263

第三十四集 小林澄兄先生古稀記念論文集

小林澄兄先生略年譜並著作目録

宮崎友愛	習慣の意義 —道徳教育に關聯して—……………	1-24
村井実	プラトンの国家と教育……………	25-59
西村皓	教育概念の弁証法……………	61-88
西谷謙堂	教育的行動に於ける児童心理学の意味 —所謂「反抗」の現象分析を媒介として—……	89-118
中山一義	福沢諭吉のみた父百助……………	119-147
松本正夫	女性の条件としての物自体性について —愛の条件としての女性について—……………	149-178
守屋謙二	鑑賞史としての美術史……………	179-204
務台理作	歴史哲学に於ける人類の概念……………	205-223
佐原六郎	社会化と社会的規範意識……………	225-247
山本万二郎	フッサールのカント観……………	249-276
山本敏夫	勤務評定に関する多面的検討 —法制的, 行政的, 技術的な側面からの吟味— ……………	277-295
横山松三郎	ティチナーに於ける感情の概念 —史的回顧—……………	297-318 (巻末より)
林 銈 蔵	配色感情に及ぼす面積の効果 II……………	1-16
小川 隆	伝書鳩のオペラント弁別 —刺激継時呈示法における交代時間の影響—……	17-34
斎藤幸一郎	「認知された確率」の動揺度……………	35-52
沢田允茂	“存在”, “実在”, 及び “事実”……………	53-82

第三十五集 慶應義塾創立百年記念論文集

I 哲学

- 松本正夫 存在論的認識論に関する覚書…………… 3-25
- 箕輪秀二 帰属の類比と比例性の類比
—Francisco de Suárez と Johannis a Sancto
Thoma の場合— …………… 27-50
- 務台理作 人間現実の二条件と人類の問題…………… 52-72
- 中山浩二郎 認識の対象に関する一考察…………… 73-93
- 大出 晁 Principia Mathematica における命題函数 II
…………… 95-119
- 沢田允茂 同一律, 矛盾律等の異なった表現の仕方とこれに
関連する哲学的立場に関する考察……………121-139
- 立野清隆 存在論の根本問題序説 (其の一) ……………141-162
- 有働勤吉 「不等性の類比」について ……………163-183
- 山本万二郎 フッサールのカント観 (完) ……………185-213

II 倫理

- 橋本 孝 シェーラー人格論に於ける非合理性の問題……………217-245
- 小泉 仰 「行為」について ……………247-266
- 三雲夏生 人格主義 (ペルソナリズム) 序章
—その立場の素描—……………267-285
- 宮崎友愛 エロースと道徳的悪について……………287-306

III 教育

- 小林澄兄 道徳教育について……………309-331
- 村井 実 ソクラテスとプラトン
—教育史の立場から両者を区別する試み—……………333-354
- 中山一義 慶應義塾起原考……………355-374
- 西村 皓 普遍妥当的教育学の可能性について
—ディルタイの所説を中心として—……………375-388

西谷謙堂	「うそ」について(一) —「うそ」の現象的分析のために— ……………	389-402
斎藤幸一郎	「現実・期待」水準差の発達的变化 —青年期心理の一特徴の量的把握の試み— ……………	403-420
山本敏夫	勤務評定に関する研究 —教育長協議會議案についての法制面からの検討— ……………	421-438

IV 社會

有賀喜左衛門	村落の概念について……………	441-464
仲 康	地域社會の社會變動に関する一考察 —千葉県九十九里浜沿岸漁村の実態調査を通じて— ……………	465-487
佐原六郎	キリスト教的社會の本質……………	489-508
佐野勝男 関本昌秀	ソシオメトリー研究の発展と今日の諸問題(其の一) —モレノのソシオメトリーの背後にあるもの— ……………	509-534
宇野善康	社会的知覚研究について —偏見基礎論への準備(一)— ……………	535-556
横山寧夫	自発的結合と制度的結合……………	557-569

V 心理

林 銈 蔵	円弧の延長の偏向について……………	573-588
印東太郎	逡巡, 躊躇に関する考察 —動物と人間におけるコンクリフト—……………	589-614
小川 隆	伝書鳩のオペラント弁別 —刺激継時呈示法における補強配合の吟味— ……	615-631
大日向達子	伝書鳩の色光弁別学習……………	633-643
横山松三郎 山升恵美子	視空間に於ける長さの知覚……………	645-660
吉田俊郎	光覚に於ける感度と図形残効……………	661-685

第三十六集

海津忠雄	建築空間の問題……………	1-30
佐野勝男	ソシオメトリー研究の発展と今日の諸問題（其の2）	
関本昌秀	—ソシオメトリー研究のその後の発展（年代的発展の傾向）— ……	31-66
立野清隆	存在論の根本問題序説（其の2） ……	67-97
山中一郎	公務員犯罪の問題点……………	99-125
山崎恒夫	アメリカ合衆国における公立学校と宗教教育の諸問題 ……………	127-147
M. H. Fisch	The Philosophy of History a Dialogue ……	149-170
山本万二郎	ドイツ諸大学哲学科講義要目に寄せて……………	171-184

第三十七集

横山寧夫	知識人の概念と類型……………	1-25
山岸健	家元制度に関する基礎的考察 —芸術社会学における一つの問題—……………	27-56
山本万二郎	「生命界」概念を中心とするフッサール後期思想の展開 ……………	57-80
山本万二郎	フッサール・アルヒーフを訪れて……………	81-90
西村皓	ディルタイの理解理論と教育学的認識の可能性について ……………	91-110
中山浩二郎	感覚的認識について……………	111-128
大出晁	「は」と「が」について —日本語の論理構造の問題—……………	129-160

第三十八集 横山松三郎先生古稀記念論文集

横山松三郎先生年譜……………	1-7
小林澄兄 今日のための「エミール」……………	1-23

務台理作	人間疎外とその実存思想……………	25-48
佐原六郎	サクソン塔とその社会的背景……………	49-78
有賀喜左衛門	家族と家……………	79-110
山本万二郎	「生命界」概念を中心とするフッサール後期思想 の展開（続き）……………	111-129
山本敏夫	公立学校事務職員に関する研究 —主として法制的検討—……………	131-145
松本正夫	存在論的認識論再論……………	147-176
小川隆	伝書鳩のオペラント弁別 —刺激継時呈示法に於ける習得基準の分析—……………	177-184
沢田允茂	哲学に於ける機械論的説明……………	185-223
横山寧夫	ディコトミー的思想 —現代社会における危機の一断面—……………	225-247
佐野勝男 関本昌秀	ソシオメトリー研究の発展と今日の諸問題（三） —ソシオメトリー研究の部門別発展傾向（一）— ……………	249-280
印東太郎	輝度の加法性について —色彩スケール論 3—……………	281-306
斎藤幸一郎	一般化判断の一研究……………	307-329

第三十九集

菅沼貞三	良寛のこと……………	1-8
仲康	デュルケーム社会学における根本問題……………	9-28
箕輪秀二	Analogia 研究 (I)……………	29-52
井上坦	感覚及び知性作用の共通源泉……………	53-71
牛田徳子	プレディカメンタとプレディカビリア……………	73-92
立野清隆	存在論の根本問題序説（其の三）……………	93-118
土屋好重	近代的ビジネスの実践哲学……………	119-130

山根和平	判断の Presupposition について……………	131-140
金子秀彬	産業心理学における情報理論の適用……………	141-166

第四十集

西村 皓	体験の思想と生の教育学（上）……………	1-20
井上 坦	均衡の概念と教育の基礎理論……………	21-45
高橋 巖	对象的思惟とゲーテの古典主義的芸術観の成立 ……………	47-67
大谷 愛人	キルケゴールによるアンデルセン批評の歴史的背景 ……………	69-112
有働勤吉	analogia secundum intentionem tantum の一考察 ……………	113-143
柏木英彦	エギディウス・ロマヌスにおける esse と essentia ……………	145-168
山岸 健	家の存続について……………	169-196
大出 晁	集合と外延……………	197-226

論評

印東太郎	沢田允茂氏の「哲学に於ける機械論的説明」について ……………	227-230
沢田允茂	象は鼻がながい……………	231-234

第四十一集

松本正夫	「存在の類比」の形而上学的意義……………	1-47
立野清隆	存在論の根本問題序説（其の四）……………	49-75
池上明哉	虚無意識の構造についての試論……………	77-101
中山一義	花と幽玄と器と……………	103-113
西村 皓	体験の思想と生の教育学（下）……………	115-135
香山芳久	科学教育と芸術教育の関係についての一考察…	135-164

横山寧夫	保守と社会構造……………	165-181
古崎敬	明暗対比現象とその生理学的基礎……………	183-211
井上恵美子	知覚に於ける学習の問題……………	213-233

論評

沢田允茂	印東太郎氏への答え……………	235-238
大出晁	沢田氏の論評に答える……………	239-243

第四十二集

中山一義	年来稽古 一世阿彌の稽古思想……………	1-20
藤江正通	日本人の自然観……………	21-43
小泉仰	現代アメリカ倫理学……………	45-71
信沢緑	「ヘーゲルの体系断片」について……………	73-98
牛田徳子	任意な範疇概念形式としてのプレデイカビリヤ ……………	99-120
小川隆	刺激汎化研究の現在……………	121-139
宇野善康	評価の諸基準に関する因子論的研究……………	141-164
仲康	デュルケーム社会学における個と全の問題……………	165-189

第四十三集

松本正夫	スコラの抽象理論の同一哲學的論拠克服の問題 ……………	1-26
大出晁	アリストテレスの三段論法における格の問題…	27-40
柏木英彦	エギディウス・ロマヌス《Quaestiones Disputate de Esse et Essentia》 に関するノート……………	41-64
三浦和男	「人間疎外」の観点からなされるマルクス解釈への疑問 ……………	65-86

八代修次	Pieter Bruegel —素描による風景画の一考察—……………	87-103
海津忠雄	初期ギリシアの青年像……………	105-129
山岸健	寺院と家元制度……………	131-197
宮家準	修験道の思想 —修験者の思想と行動 1—……………	199-226
中山一義	命には終わりあり，能には果てるべからず —世阿彌の生涯稽古思想—……………	227-254
書評		
有働勤吉	“L. M. Régis, O. P.; Epistemology” ……………	255-258
第四十四集		
中山浩二郎	受けとるものと受けとられるもの……………	1-20
池上明哉	意識の志向性と対自存性 —サルトル哲学研究—……………	21-49
藤江正通	画法と画趣……………	51-72
大淵英雄	明治初期に於ける五戸組 —長野県諏訪市湖南区南真志野—……………	73-95
高橋たまき	刺激搬化勾配……………	97-121
中山一義	花の公案……………	123-142
書評		
山岸健	森岡清美著「真宗集団と家制度」……………	143-147
第四十五集		
松本正夫	離存形相の質料・形相論的構成について……………	1-35
有働勤吉	判断の真理とその基礎……………	37-60

宇野善康	コミュニケーション研究覚書 —人間性への指向と George Gerbner の理論—	61-84
佐藤方哉	行動理論構成の論理.....	85-109
中山一義	花の公案 (二) —世阿弥の稽古思想—.....	111-133
井上 坦	Rousseau の nature と vertu が意味するもの	135-158

第四十六集 橋本孝先生古稀記念論文集

橋本孝先生略歴.....		1-4
神山四郎	歴史的説明の論理の問題.....	1-17
松本正夫	弁証法論理と形式論理について —存在乃至対象の論理からみた両者の関係—...	19-39
箕輪秀二	トマスの analogia	41-61
中山浩二郎	認識者の様式と思惟の形式について.....	63-81
大出 晁	Quine の集合論	83-108
沢田允茂	目的および価値等の事実よりの導出.....	109-123
立野清隆	ハイデガー「根拠の命題」.....	125-141
有働勤吉	存在論における対象の経験性.....	143-159
山本万二郎	フッサール現象学における生命界の階層的構造と歴史	161-176
池上明哉	サルトル自由論の基本構造.....	177-200
小泉 仰	ジョン・スチュアート・ミルの幸福と快樂主義的背理	201-215
三雲夏生	M. Blondel の Normative	217-238
宮崎友愛	道徳体験の根元的構造 —罪意識と良心—.....	239-254

山崎照雄	ヘーゲルにおける「市民社会」の概念 —その成立の背景と「国家」に対する問題的關係—	255-277
守屋謙二	日本美術における「古典的なもの」.....	279-288
菅沼貞三	大雅画禅の説.....	289-305
八代修次	ブリューゲルとマニエリスム.....	307-317
宮家準	修験道の入峰修行におけるシンボリズム.....	319-337
仲康	諏訪のマキ.....	339-366
佐原六郎	諏訪市湖南地区南真志野の教育.....	367-389
山岸健	町内会の組織と機能.....	391-414
横山寧夫	従機能の概念 —R. Merton の dysfunction 概念の再検討—	415-424
小川隆	感性統制下の条件づけ.....	425-436
井上坦	J.-J. Rousseau の宗教 —及びそれと教育との関係—.....	437-454
村井実	道徳は教えられるか.....	455-470
中山一義	学貧之説 —「正法眼蔵随聞記」を読む—.....	471-484
西村皓	「ゲエテと教育学との関係, およびゲエテに 対するわれわれの視角について」.....	485-500
山本敏夫	イギリスの道徳教育.....	501-519
橋本孝	回想七十年.....	1-31

第四十七集

松本正夫	存在の自明性と物自体の仮説について.....	1-42
大淵英雄	村落生活と消防組 —長野県諏訪市湖南区南真志野—.....	43-69

横山寧夫	神秘主義の社会学 —Meister Eckhart とその時代— ……………	71-102
小林澄兄	「交わり」の問題を中心として ……………	103-124
西村 皓	ゲーテにおける人間的自然の概念とその根本直観 について……………	125-140

第四十八集

三浦和男	唯物史観と人間……………	1-20
牛田徳子	質料形相論による人間理性の概念……………	21-46
宮家 準	修験道の験術 —そのメカニズムと世界観—……………	47-70
山岸 健	芸術社会学概観……………	71-115
井上 坦	社会的平等の根拠について……………	117-137
西村 皓	ゲーテ教育論の人間学的基礎づけへの一つの試み ……………	139-170
間瀬啓允	新刊紹介：分析的宗教哲学の形成……………	171-183

第四十九集

海津忠雄	ハンス・ホルバインの「死の舞踏」……………	1-18
仲 康	湖南の人々……………	19-70
佐藤方哉	単純作業場面での心理学的能率……………	71-86
西村 皓	ドイツ・ロマン主義教育学研究への一試論 —とくにエルンスト・モリツ・アルントの 陶冶概念について—……………	87-111
柏木英彦	「創造と Possible Esse」覚え書 ……………	113-128

第五十集 第五十集記念号

橋本 孝	「哲学」第50集記念号発刊に際して ……………	1-5
------	-------------------------	-----

小泉 仰	西周の「行門の論理」とその適用……………	1-21
大谷 愛人	十九世紀前半世紀デンマークにおける 反ヘーゲル主義思想の系譜 —キルケゴール理解のための一つの前提—……	23-46
渋谷 勝久	若きヘーゲルの思索に於ける哲学と宗教の精神 ……………	47-71
牛田 徳子	感覚の反省的能力……………	73-97
山本万二郎	現象学における問題点とその行方……………	99-128
山根 和平	意味の問題……………	129-149
山崎 照雄	Hegel における Moralität —Sittlichkeit との問題的關係序章— ……	151-170
菅 沼 貞 三	大雅の十便画冊……………	171-181
宮 家 準	修験道の憑祈禱 —そのメカニズムと世界観—……………	183-211
鈴木 真一	社会的孤立の病理 —共生の欲求の精神分析的メカニズム— (Pathology of Social Isolation) ……	213-228
宇野 善康 青池 慎一	革新的アイデアの普及に関する諸命題 その(2) —商品化作物(りんどう)栽培の普及過程の考察— ……………	229-258
山 岸 健	芸術社会学の基本図式……………	259-281
横 山 寧 夫	存在拘束性理論と機能理論……………	283-302
天羽 大平	統計的方法によらない心理学における 数量化についての準備的考察……………	303-328
平 出 彦 仁	道具的回避条件づけ研究における諸問題……………	329-359
杉 本 助 男	長時間感覚刺激欠乏環境下における人の行動変容過程 ……………	361-374
鷺 見 成 正	運動の知覚と形態法則……………	375-392
井 上 坦	現代教育における職業教師の Role ……	393-412

神津善三郎	明治期の信州における「子守教育」について…	413-432
名倉英三郎	里見学校日誌 —学校の経営—	433-452
中山一義	花伝或問 —世阿弥の芸能稽古論に関する三つの質疑—	453-462
西村 皓	自然主義的人間観と教育思想	463-510

第五十一集

間瀬啓允	分析哲学とキリスト教	1-20
渋谷勝久	ヘーゲルの哲学的方法の体系的発展 (若きヘーゲルの思索に於ける哲学と宗教の精神)	21-65
高野守正	論理と数学の現実への適用可能性	67-78
立野清隆	存在論の根本問題序説 (其の五)	79-97
山本万二郎	現象学における問題点とその行方 (続き)	99-126
山根和平	関数としての文構造	127-140
守屋謙二	美しき聖母	141-152

第五十二集

佐原六郎	佃島の文化 (記述的芸術社会学資料探訪)	1-46
間瀬啓允	「分析哲学に対するキリスト教のアプローチの仕方」 —言語分析的立場からみた科学知と宗教知の相違—	47-72
西山佑司	文法, 意味, 論理の接点 —山根和平氏「関数としての文構造」批判を中心に—	73-152
曾我英彦	フッサールにおける体験の空間的構造	153-177
山本万二郎	現象学と現代哲学思潮 —特に分析哲学との関係について—	179-212

山根 和平	チョムスキーの言語理論と記号論理学の方法…213-225
小谷津孝明	音質嗜好の一解析的研究
外山 純子	—再生周波数特性との関係—……………227-251
三浦 彰	
佐藤利喜夫	

第五十三集 守屋謙二先生古稀記念論文集

松本正夫	天使の自然的認識についての覚書……………	1-21
山崎照雄	An Approach to the Fragment of Milesian Anaximander —A <i>first</i> Boundary Stone on <i>tropos</i> from Mythos to Logos— ……………	23-45
江口正一	明治美術寸描……………	47-52
衛藤 駿	風神雷神図の系譜 —ボストン美術館蔵千手観音二十八部衆 風神雷神図について—……………	53-63
藤江正通	本阿弥光悦小論……………	65-81
保坂三郎	経塚論……………	83-105
飯田善国	ヨーロッパ彫刻家のシンポジオン……………	107-117
生尾慶太郎	アーモリー・ショーから見たアメリカ現代美術 ……………	119-127
海津忠雄	ハンス・ホルバインの妻の像……………	129-146
金澤 弘	雪舟筆天橋立図とその周辺……………	147-157
宗像清彦	中国における樹石図の発生とその意義……………	159-179
西川杏太郎	高野山六角経蔵の四天王像について —仏師快慶の新資料—……………	181-188
佐藤雅彦	中国美術の受容に際しての日本人の好み……………	189-193
柴田 明	アフロディテと三美神（カリテス）たち……………	195-210
渋谷勝久	アルピルスバツハ僧院教会の建築……………	211-222

菅沼貞三	竹田の亦復一楽帖……………	223-238
高橋巖	わかきヴェルフリンにおける美学と美術史……………	239-259
高野啓一郎	道徳教育における美的諸契機 —平和と閑暇のための方法を求めて—……………	261-276
八代修次	レンブラントと Cinquecento の美術……………	277-290
馬場健	明治初期における音楽教育の展望 —伊沢修二と音楽取調掛を中心に—……………	291-305
藤野善臣	現代における大衆演劇の課題……………	307-320
姫野翠	民族芸能における「美しさ」 —日本の民族芸能を中心として—……………	321-331
中野博詞	古典派研究に関する諸問題……………	333-347
鷺塚泰光	日吉山王祭礼図……………	349-353
青柳瑞穂	展覧会の絵……………	355-358
西川寧	守屋謙二書画展……………	359-364
小田栄一	茶人守屋教授……………	365-367
渋井清	守屋さんと私……………	369-379
守屋謙二	七十年の幻影……………	381-457
守屋教授著作目録……………		458-465

第五十四集

細谷章夫	カントの就職論文に於ける感覺的認識と悟性的認識 ……………	1-21
間瀬啓允	宗教言語の哲学的分析 —世俗的思惟における宗教—……………	23-41
西山佑司	文の分析性について —生成文法意味理論に基づく解釈をめぐって— ……………	43-80
小泉仰	西周による統一科学の試み……………	81-115

小松光彦	〈倫理〉(モラル)の危機をめぐる諸問題……………	117-147
多井一雄	目的論の存在領域……………	149-166
唐澤和義	政治社会学の問題領域……………	167-192
山岸健	英国文化の構造序説……………	193-222
《博士論文抜粋》		
大谷愛人	「キルケゴール青年時代の研究」要旨……………	223-228
牛田徳子	Étude comparative de la psychologie d'Aristote, d'Avicenne et de St. Thomas d'Aquin (アリス トテレス, アヴィセンナ, トマス・アキノナスの 霊魂論比較研究)……………	229-234
宮家準	修験道における宗教儀礼の構造……………	235-245

第五十五集

高野守正	パターン認識……………	1-16
牛田徳子	古代・中世における自己認識の問題点……………	17-35
池上明哉	サルトルの「自己欺瞞」について……………	37-66
小泉仰	『百一新論』における西周の人間性論と萩生徂徠 ……………	67-96
宇野善康	日本におけるTV受信機の普及過程……………	97-142
佐藤方哉	《円卓心理学》の提唱	
神尾昭雄	—〈記憶〉を巡っての予備的考察—……………	143-212
小野尚志		
《博士論文審査の結果の要旨》		
大谷愛人	キルケゴール青年時代の研究……………	213-226
牛田徳子	Étude comparative de la psychologie d'Aristote, d'Avicenne et de St. Thomas d'Aquin……………	227-236
宮家準	修験道における宗教儀礼の構造……………	237-247

第五十六集

- 小泉 仰 西周の生性発蘊におけるコントの人間性論
—資料としての検討—…………… 1-20
- 大谷 愛人 S. キルケゴールのアイロニー理解
—その序論的考察のためのノートとして—…… 21-58
- 海津 忠雄 イギリス時代のハンス・ホルバイン…………… 59-86
- 大淵 英雄 有賀社会学の基礎理論とその展開…………… 87-111
- 井上 坦 J.-J. ルソーの無名時代の著作研究……………113-139

資料紹介

- 河合 正朝 神前松徳筆 達磨図……………141-155

第五十七集

- 田口 啓子 いわゆる「第三の道」について…………… 1-22
- 池上 明哉 サルトルの「政治参加」過程…………… 23-41
- 小松 光彦 倫理と反倫理
—〈倫理〉の両義性に関する問題再論— …… 43-71
- 海津 忠雄 ハンス・ホルバインと風景画…………… 73-91
- 末吉 雄二 ピカソの〈ゲルニカ〉に関する一考察…………… 93-109
- 戸沢 行夫 人類学における「構造論」の社会学的展開……………111-135
- 山岸 健 ハーバート・スペンサーにおける芸術と社会…137-164
- 横山 浩司 《了解》の諸問題についての予備的考察
—《円卓心理学》批判より— ……165-186
- 中山 一義 秘伝書哀史
—将軍たちと世阿弥との間—……………187-217

第五十八集 名誉教授宮崎友愛先生記念論文集

宮崎友愛先生略歴

柏木英彦	サン・ヴィクトルのフーゴーにおける美と超越	1-15
松本正夫	実在的区別 <i>distinctio realis</i> についての覚書 —田口啓子君の批判に答える—.....	17-32
三浦和男	マルクスの思想体系における疎外の構想の位置について	33-49
水野道夫	弁証法と観点との関係について.....	51-65
大出 晁	確率論の基礎概念 I	67-86
沢田允茂	ミクロ倫理学とマクロ倫理学 —価値と事実の新たな関係について—.....	87-102
曾我英彦	時間の方向性.....	103-118
立野清隆	中庸 (その一)	119-135
山根申吉	カントの数理哲学に関する二三の問題.....	137-147
池上明哉	サルトル『弁証法的理性批判』の構成.....	149-169
小泉 仰	西周訳『奚船氏心理学』と西の人間性論.....	171-192
小松光彦	倫理性と義務との間 —カント倫理学における一つの難問—.....	193-209
大谷愛人	哲学の基礎領域について.....	211-230
多井一雄	カントの「宗教論」の第一篇における感性的原理	231-242
海津忠雄	Schongauer と Dürer	243-258
八代修次	De Stijl の思想 —Piet Mondrian の Neo-plasticism—	259-279
中井信彦	富士谷御杖における神道と人道 —思想の自律性によせて—.....	281-297
山崎恒夫	ヒポコンドリー性基調に関する適応心理学的考察	299-316

井上 坦	続 J.-J. ルソーの無名時代の著作研究 —リヨン時代を中心として—	317-335
------	--	---------

第五十九集

大出 晁	確率論の基礎概念 II	1-23
小泉 仰	『知説』における西周の人間性論	25-53
末吉 雄二	ピカソとエル・グレコ	55-75
戸沢 行夫	開物思想の啓蒙性について —佐藤信淵の「家学」を中心に—	77-104
金子 秀彬	注意の選択過程	105-126

第六十集

山根 和平	論理的真理について	1-12
小泉 仰	沢田允茂氏『ミクロ倫理学とマクロ倫理学』に対する反論	13-35
青池 慎一 宇野 善康	革新的アイデアの普及に関する諸命題 その(3) —水田除草剤 (Sodium-Pentachlorophenol) の普及過程の考察—	37-81
平野 敏政	社会人類学における動態理論	83-108
山岸 健	世紀末の社会学	109-147
中山 一義	花と稽古の論理	149-173
西村 皓	ヘーゲルの愛の思想について	175-202

第六十一集

水野 道夫	弁証法における他者の役割 I —前期サルトルをめぐって—	1-24
沢田 允茂	「再びミクロ倫理学とマクロ倫理学について」 —小泉仰君の反論に再び答える—	25-44

高野守正	確率の意味 I	45-84
西川宏昌		
末吉雄二	ピカソの「バルセロナ時代」	85-108
青池慎一	革新的アイデアの普及に関する諸命題 その(4)	
宇野善康	—新潟県刈羽郡小国町字八王子(旧山横沢村) における自動耕うん機の普及過程—	109-155
堀内四郎	多義尺度型データ処理の一方法 —多次元属性空間縮小の計量的手法—	157-185

第六十二集

水野道夫	弁証法における他者の役割 II —相互主観の水準における否定性について—	1-25
高野守正	確率の意味 II	27-54
西川宏昌		
前田富士男	パウル・クレーにおける「分節」概念の成立	55-82
久保田芳広	悪口の修辞学 —コミュニケーションとしてのフォークロア—	83-105
宇野善康	コミュニティ・コミュニケーション・システムの構造	
中村俊雄	—普及過程の総媒体に関する事例的考察—	107-183
野崎龍一		
村瀬峻一		
青池慎一		
山岸健	ハーバート・スペンサーの世界	185-220
由木義文	文化変容に関する一考察	
仲康	—シナ天台宗と日本天台宗との仏陀観を通じて—	221-268
渡辺茂	いわゆる比較心理学について	
樋口義治	—その現状と課題—	269-288
林部英雄		
望月昭		

中山一義	慶應義塾一貫教育制度の成立 —福沢の生と死とをめぐって—……………	289-308
太田垣幾也	教育基本法の問題性……………	309-329
俵木浩太郎	カント教育思想研究序説（その一） —“Idee”と“philosophieren”— ……	331-354

第六十三集

土屋好重	老子哲学の現代的な意義付け……………	1-17
小松光彦	カントと状況倫理の問題 —虚言論をめぐって—……………	19-37
多井一雄	Origenes における τὸ αὐτεξούσιον に関する一考察 ……………	39-53
平野敏政	親族関係の分析視点……………	55-70
大淵英雄	入会林野とその地盤所有 —明治初期の新合併村の創設との関連について— ……………	71-87
内野久美子	タブーの社会学……………	89-105
由木義文	日本における仏陀観 —特に仏とホトケの問題に関連して—……………	107-122
並木博 内藤俊史	短い物語による倫理的場面の設定と判断に関する研究 ……………	123-140

第六十四集

服部裕幸	選列の理論について……………	1-19
西脇与作	Boole の論理学……………	21-38
樽井正義	カント倫理学における法則概念の二義性……………	39-57
藤田弘夫	比較都市社会学と M. ヴェーバーの都市論 ……	59-78
大淵英雄	Soziale Beziehung と Gesellschaftliches Verhältnis [1] ……	79-99

- 吉原直樹 ソ連における都市研究の動向
—社会学を中心に—……………101-120
- 俵木浩太郎 カント教育思想研究序説（その二）
“Kunst”としての教育……………121-141

第六十五集

- 間瀬啓允 「自然と人間」に関する方法論的な考察 …… 1-21
- 西脇与作 Frege 的論理と非 Frege 的論理 …… 23-49
- 藁谷敏晴
- 小関秀男 ens, essentia, esse について …… 51-70
- 木幡順三 レトリックの行方
—芸術とのかかわりを追って—…………… 71-95

Moritaka Matsumoto

- Newly Discovered Literary Evidence for the
Dating and Provenance of a Twelfth Century
Buddhist Painting …… 97-112
- 熊坂賢次 レジャー領域確定のための準拠枠
—力と機能による歴史的現実の再構成—……………113-137
- 長沢亮太 産業開発青年隊の創設理念……………139-166
- 宇野善康
- 高木正朗 都市近郊における「家」の変容過程
—同族と親類にかんする親族理論の検討をとおして—
……………167-188
- 吉原和男 比較宗教運動論序説……………189-214
- 山田恭一郎 記憶の Encoding 過程
—Tulving の仮説をめぐって— ……215-234

第六十六集

- 小関秀男 現実態と可能態…………… 1-25

永井 均	エクリチュールの比喩……………	27-54
美山良夫	クロード・ルジュヌの韻律音楽の異版をめぐって —《エール集》(1594年)の意義— ……	55-73
熊坂賢次	「レジャー社会」の類型論 —レジャー社会の今日的意味— ……	75-97
田中克佳	いわゆる「教育の政治化論争」について ……	99-119
伊藤 暁		
Yosaku Nishiwaki	Model Spaces ……	121-135
Toshiharu Waragai	The Notion of Logical Rejection and a Proof of L- decidability of the Classical Propositional Logic ……	137-149
Syed Maqbool Murtuza	Colonial Legacies and Development ……	151-167
Shigeru Watanabe	An Experimental Analysis of Selective Stimulus Control Following Binocular Mirror Image Discrimination Training in Pigeons……………	169-178

第六十七集

服部裕幸	行為の個別化……………	1-21
藁谷敏晴	名辞の理論	
西脇与作	—序—……………	23-48
小松光彦	カント宇宙論の根底と超越論的理性の冒険 —批判哲学形成史への非学問的序説の試み— ……	49-64
藤田弘夫	社会思想としてのアメリカ都市社会学 —「アメリカ都市研究」の知識社会学的研究— ……………	65-90

小谷津孝明	文字認知における自動性の形成……………	91-116
鬢櫛久美子		
坂本辰朗	コミュニティ・ジュニア・カレッジ成立過程研究序説 ……………	117-141

Toshiharu Waragai

A remark on the semantic category of the Lukasewicz rejection-symbol: Addendum to "The notion of Rejection and a Proof of L-Completeness of the Two-Valued Logic" ……………	143-146
---	---------

Takao Minami, William A. Schieman

Satisfaction-Rewards-Performance Relationships: A Correlational Casual Analysis ……………	147-171
---	---------

第六十八集

小関秀男	アリストテレスの実体概念について……………	1-26
茂木 博	A. ヴァールブルクの「文化學」について ……	27-49
平野敏政	古代籍張上に見る戸と家族……………	51-80
宇野善康	沖縄農村のイノベーション普及過程に関する諸命題 ……………	81-103
長沢亮太		
公望聡史		
石田米一		

Mitsuru Wakabayashi and Takao Minami

Toward A Theory of Organization onal Career Development: A Longitudinal Investigation of the Role Making Process of Japanese College Graduates 1 ……	105-132
--	---------

Shigeru Watanabe
 Effects of Unilateral Spreading Depression upon
 Monocularly Trained Operant Behavior in Pigeons
133-143

Hiroshi Namiki, Junko Hayashi and Takeshi Shibata
 Specificity-Generality of Aptitude Information
 in the Aptitude-Treatment Interaction:
 An Experimental Evidence145-162

第六十九集

Toshiharu Waragai
 Formal Characters of Aristotelian Language
 1-22

永井 均 超越論的主観性と意義作用
 —デリダのフッサール批判から— 23-42

篠崎 幸二 距離と内属の存在論
 —メルロ＝ポンティ身体論へのアプローチ— ... 43-65

樋口 義治 オペラントライフの視点 67-89

望月 昭

山口 耕一

佐藤 方哉

石崎 秀和 「トッテの世界」
 —幼児絵本の翻訳をめぐる比較教育学的検討—
 91-129

第七十集

高野 守正 確率の意味 III
 1-21

田中見太郎 様相命題論理の立体化 23-39

森永龍磁	ヴィンケルマンと彼のギリシア観 —彼の古代彫像, 特に《ベルヴェデーレの トルソ》観照に関する一考察—……………	41-60
末吉雄二	コッポ・ディ・マルコヴァルドの研究 —その1 研究史を中心として—……………	61-88
西河正行	経営におけるコンピューターの利用 —東京瓦斯(株)にみる事例—……………	89-114
岡沢 薫	コミュニケーション『二段階流れ』仮説の 再考察: その理論的展開と限界……………	115-143
坂本辰朗	地域社会への教育サービス コミュニティ・カレッジの場合……………	145-168

第七十一集

藁谷敏晴	直観の形式化と論理的存在論……………	1-42
福田正子	映像の意味作用……………	43-64
末吉雄二	コッポ・ディ・マルコヴァルドの研究 —その2 アトリビューションと評価をめぐって— ……………	65-96
南 隆 男	大学組織における学生の自我同一性確立過程	
若 林 満	—総合的継時分析にむけての覚え書き—……………	97-162
西河正行		
小林ポオル		
Syed Maqbool Murtuza	Village Home Industrialization: The Yanmer's Case —Feasibility in Bangladesh— ……………	163-186
井 上 坦	教育の根本問題としての制度化 —人間生成の抑圧と解放—……………	187-210

第七十二集

西脇興作	様相の証明可能性解釈……………	1-26
永井均	「他我の問題」の本質……………	27-47
西村義人	E. ブロッホの〈脱出〉の宗教哲學……………	49-69
森永龍磁	チチェローネとしてのヴィンケルマン……………	71-86
藤原真砂	資源動員視点による運動分析 横浜新貨物線反対運動を事例にして……………	87-113
池田久美子	「経験」の母体的性格の喪失 —広岡亮蔵氏の経験主義批判において—……………	115-136
大谷愛人 三雲夏生 市倉宏祐	池上明哉君博士論文の審査要旨 「メルロ＝ポンティ研究」……………	137-144

第七十三集

千葉恵	『分析論後書』における自体性の問題 <i>ἐπιστήμη</i> の成立根拠をめぐる……………	1-24
内田満	旧約聖書における「顔」の比喩 —人格概念の—源泉—……………	25-47
小林頼子	J. フェルメールの《デルフト眺望》 —都市景観画としての観点から—……………	49-78
青池慎一	ニュース情報普及におけるニュース・バリュー要因 ……………	79-100
有末賢	都市民俗研究への—視角 —新たな分析視角の模索—……………	101-123
楨田仁 伊藤隆一	入学試験・小論文にみる受験者の人口問題 意識調査……………	125-149
長尾真里	批判理論と言語 —J. ハーバーマスの「普遍語用論」をめぐる— ……………	151-178

白川 琢磨	現代人類学理論における「分類」の諸問題……	179-203
藤原 敬子	我が国における「教育」という語に関しての一考察 ……………	205-226

第七十四集

星野 慎吾	意識と生命についての試論……………	1-19
岡本由紀子	〈意味〉の意味するもの ウィトゲンシュタインに於ける“use”について 検討する……………	21-40
谷 徹	フッサール晩年の遺稿における他者理論の展開 ……………	41-63

Toshiharu Waragai

Basic Construction of a System of Logic
Based on Identity and Demonstratives …… 65-78

西村 義人	希望のための存在論と論理学……………	79-101
海津 忠雄	父ハンス・ホルバインの《生命の泉》 —最近 20 年間の研究回顧— ……	103-129
吉沢 夏子	A. シュッツにおけるフッサール哲学の意義 —“自然的態度の構成的現象学” とは何か— ……	131-153

第七十五集

田中見太郎	自我は存在するか?……………	1-18
千葉 恵	『自然学』A 巻における生成の問題 —質料概念の形成をめぐる—……………	19-45
八木 雄二	なぜ意志は知性から区別されるか —誤謬論の一側面—……………	47-72
山口 貞明	主体性と社会的統合 —ヘーゲル法哲学に於ける特殊態の問題—……………	73-93
谷 寿美	ソロヴィヨフの二律背反……………	95-120

谷 徹	現象学的反省と超越論的言語……………	121-142
樽井正義	カントの所有論……………	143-163
竹林史郎	マルクスの問題……………	165-184
杉山尚子	展望：注意に関する諸研究	
渡辺 茂	—選択的刺激性制御として—……………	185-206
藤谷智子	ATI（適正・処理交互作用）研究における	
並木 博	情報处理的アプローチ……………	207-235
安友 進	進歩概念の論理的検討：進歩と退歩	
	—型 Form の意味をめぐって— ……………	237-263

第七十六集

松谷 育	Accordion Effect <i>phenomena</i> ……………	1-26
岡本由起子	「フッサールにおける受動的綜合の問題」 ……	27-51
山口貞明	主体性と社会的統合	
	—ヘーゲル法哲学における特殊態の問題—（下）	
	……………	53-74
内田 満	パウル・ティリッヒのキリスト教倫理学……………	75-95
八代修次	慶應義塾とイサム・ノグチ……………	97-121
長尾真理	G. H. ミードとプラグマティズム	
	—時間論を基軸として—……………	123-147
高橋孝次	現代社会の存立構造の超克へむけて	
	—マルクス・公共選択・イヴァン・イリイチ—	
	……………	149-172

第七十七集

牛田徳子	アリストテレスの論理学における転換性……………	1-25
柴田陽弘	「魂の座」	
	—ノヴァーリスとカント—……………	27-53

仲 康	J. J. ルソーと E. デュルケームにおける根本思想 —ルソー『エミール』とデュルケーム 『道徳教育論』を主題として— ……………	55-82
鈴木秀一	「ヴェーバーとニーチェ」問題の批判的考察 —M. ヴェーバー政治論批判の再検討— ……………	83-112
青池慎一	イノベーターおよびオピニオン・リーダーの イノベーション・カテゴリー間における重複性 —事例研究—……………	113-131
Motohiro Morishima, Takao Minami	Task Interdependence and Internal Motivation: Application of Job Characteristic Model to “Collectivist” Cultures ……………	133-147
西河正行 佐野勝男	大学生活は学生のキャリア発達にどのように 影響を与えているのか —新入学性の大学組織への適応・同化過程の 継時的分析をとおして—……………	149-184
石崎秀和	トッテと大人 —幼児絵本の翻訳に関する比較教育学的実験— ……………	185-224

第七十八集

牛田徳子	アリストテレスの範疇教説と <i>Categoriae</i> (I) …	1-27
田中見太郎	様々な神話……………	29-44
小松光彦	カント倫理学における最高善概念の位置……………	45-67
樽井正義	カント法哲学における自立の概念……………	69-91
成田和信	欲求と道徳的理由……………	93-114
斎藤慶典	反省と実践 —現象学的反省と哲学者の自己責任—……………	115-146

Moritaka Matumoto

Iconological Study of Potalaka White-robed
Kuan-shin-yin147-169

安藤寿康 遺伝-環境問題再考
渡辺恵子 —新しい遺伝観を求めて—.....171-198

沢谷 豊 E. トーピッチのイデオロギー批判に関する一考察
.....199-221

村上綱実 「合理的官僚制」における「合理性」
—官僚制組織の構造的緊張—.....223-246

第七十九集

牛田徳子 アリストテレスの範疇教説と *Categoriae* (II) ... 1-20

千葉 恵 アリストテレスの三段論法の起源(1)
—論理学の形成過程をめぐって—..... 21-48

井野 綽也 カント「先験的感性論」についての—考察..... 49-73

永井 均 人と動物の差異について..... 75-95

Yuu Tani Translatability as a Philosophical Problem
..... 97-120

坂本辰朗 教育における性差別と教育モデル
—J. R. Martin の諸論文の考察を中心に—.....121-145

生田久美子 「『わざ』を知る」とは何か
—世阿弥の「花を知る」を中心に—.....147-165

河野真佐子 エリクソンの発達理論に関する一考察
—その基本的視座について—.....167-187

榎田 仁 精研式パーソナリティ・インベントリィの
小林和久 改訂と再標準化.....189-210

伊藤隆一

第八十集

西脇与作	自然選択と適応……………	1-24
千葉 恵	アリストテレスの三段論法の起源(2) —論理学の形成過程をめぐって—……………	25-55
芝原 隆	「本性」と「経験」 —メーヌ・ド・ピランにおける心身合一の基底— ……………	57-84
谷 徹	キネステーズ意識と相互主観性……………	85-106
俣田 徹	「動機理論」をめぐって……………	107-125
鹿又伸夫	社会移動研究と疑似対数線型モデル……………	127-148
赤尾勝己	教育管理の社会的基底に関する一考察 —近代公教育への批判的視座を求めて—……………	149-172

第八十一集

高野守正	構造主義の吟味 —論理主義のパラダイム—……………	1-35
田村京子	フッサールの『相互主観性』についての一考察 ……………	37-60
澤井 敦	M. ウェーバーと知識社会学的思考……………	61-80
東 敏徳	教育における民主的態度の必要性 —R. S. ピーターズを手がかりとして—……………	81-98
三井宏隆	スティグマの社会心理学……………	99-120

第八十二集

間瀬啓允	ホワイトヘッドにおける神論の形成過程……………	1-24
宮館 恵	翻訳の不確定性とその帰結……………	25-46
堀江 聡	アリストテレスの「付带的感覚」に関する一解釈 ……………	47-75

田村京子	心理学的還元と超越論的還元 —世界について—……………	77-100
小林頼子	Hendrick ter Brugghen's "King David Harping Surrounded by Four Angels" ……	101-129

第八十三集

西脇与作	パラドックスから真理の理論へ……………	1-31
宮館 恵	理論の決定不全性と言語理論の不確定性……………	33-60
岡田光弘	論理的意味論と整合性証明……………	61-86
岩村太郎	パウロ・ティリッヒにおける終末論……………	87-109
末吉雄二	様式の受容と創造 —マニエーラ・ラティーナの成立をめぐる…	111-135
鈴木正崇	社会変動下の民衆文化とエリート文化 —スリランカのカタラガマ祭祀を中心として— ……………	137-172
増子由美子	社会福祉におけるサポートの今日の問題点……………	173-198
井上 坦	「学ぶ」と「教える」関係の新考察の試み —公益概念との絡み合いを軸として—……………	199-223
Andrew Duff-Cooper	Some Ways of Delineating the Structure of the Form of Balinese Life in Western Lombok ……………	225-249
稲葉昭英 高橋 潔 小林和久 浦 光博 高根定信 南 隆男 三井宏隆	家族ストレス論による単身赴任家族研究の試み ……………	251-286
	ジェンダーの社会心理学……………	287-316

第八十四集

- 堀江 聡 アリストテレスにおける感覚魂の一性…………… 1-25
- 成田和信 道徳判断の普遍化可能性について
—R. M. ヘア—の議論を中心に—…………… 27-50
- Ursula Lytton
Zur Bedeutung der Spirale als Symbol der
Wandlung…………… 51-89
- 中垣 啓 納得と理解
—発生的認識論と認知心理学研究(1)—…………… 91-118
- 渡辺 恵子 教育評価とテストの妥当性……………119-135
- 石黒 広昭 言語表現の理解と研究のために
—記号の素描—……………137-163
- 真壁 宏幹 《世阿弥の稽古論における“能的身体”の
形成について》……………165-191
- Andrew Duff-Cooper
Living with the Structure of a Balinese
Form of Life in Western Lombok……………193-226
- 武田 圭太 男子大卒者の初期キャリア発達
南 隆 男 —適職感 (Feeling of Vocational Suitability) の
継時的変化の検討をとおして—……………227-241
- 三井 宏隆 社会的ルールについての—考察……………243-266

第八十五集

- 由谷 裕哉 真宗村落の宗教調査にむけて…………… 1-25
- 小林 等 日本人の自然観
—二宮尊徳の天道・人道と秩序—…………… 27-48
- 澤井 敦 知識社会学と自己反省
—K・マンハイムの保守主義論をめぐって—… 49-77
- 森田 希一 ホーレス・マンにおける教育的関心と政治的関心
…………… 79-107

稲葉昭英 浦光博 南隆男	「ソーシャル・サポート」研究の現状と課題 …109-149
南隆男 稲葉昭英 浦光博	「ソーシャル・サポート」研究の活性化にむけて —若干の資料—……………151-184
三井宏隆	Psychological androgyny について ……185-213

第八十六集

宮館 恵	解釈と行為の説明における寛容の原則…………… 1-26
三浦雅弘	バークリの「抽象」の理論…………… 27-58
飯森豊水	J. ハイドン作「初期弦楽四重奏曲」の帰属 ジャンルをめぐって…………… 59-83
吉沢夏子	「観察」と他者性 …… 85-106
中垣 啓	視点と理解 —発生的認識論と認知心理学研究(2)— ……107-150
Andrew Duff-Cooper	The Formation of Balinese Ideology in Western Lombok ……151-198
南隆男 浦光博 稲葉昭英	単身赴任家族の危機適応過程 —「赴任期間」と「妻の価値観」に着目して— ……………199-227

第八十七集

大出 晁	アリストテレスにおける《回顧的説明》パターン …………… 1-17
中山浩二郎	トマスにおける能動知性と抽象…………… 19-34
立野清隆	ヨーロッパ哲学の足跡…………… 35-51
間瀬啓允	ジョン・ヒックの宗教認識論…………… 53-68

西脇与作	生物学での記号, 照合, 根拠付け……………	69-86
池上明哉	レヴィナスにおける存在論から倫理への移行行き ……………	87-104
小松光彦	人間学的経験と理性の洞察 —カントにおける実践哲学の基礎づけの 課題をめぐって—……………	105-136
樽井正義	二つの自由概念……………	137-150
奈良雅俊	マルセルの哲学における実存から存在への展開について ……………	151-174
草柳千早	相互行為への「身振り会話」論的アプローチ…	175-201
岩田若子	生活変動と「ライフスタイル」……………	203-218
Andrew Duff-Cooper	Reflexive Relationships in Aspects of the Ideology of the Balinese on Lombok ……	219-255
田沼光明	ディドロの天才論—ディドロの能力観及び 公教育論の限界についての一考察—……………	257-280
佐伯 胖	認知心理学はいかに発展したか —納得論とメンタルモデル—……………	281-304
横田 仁 岩熊史朗	WAI技法を用いた Self-Image の研究(2) —WAI 反応の発達的变化— ……	305-327

第八十八集

間瀬啓允	ジョン・ヒックの宗教多元論……………	1-27
河野哲也	モーリス・メルロ＝ポンティにおけるフロイト主義 ……………	29-49
小松光彦	純粹実践理性の事実と道德性のアポリア —カントにおける実践哲学の基礎づけの課題を めぐって, その二—……………	51-79
森 庸	ロールズにおける道德原理とその正当化……………	81-104

八代修次	草土社の図画教育……………	105-131
海津忠雄	美術史における対象の概念 —ブルクハルトとヴェルフリン—……………	133-163
真壁宏幹	ディルタイの「理解」概念がもつ形態学的 特性について —多様な意義のポリフォニックな把握としての理解— ……………	165-187

第八十九集

間瀬啓允	ジョン・ヒックの宗教言語論……………	1-23
河野哲也	メルロポンティにおける物の超越性……………	25-46
石井敏夫	ベルクソン哲学の一面……………	47-70
紺野敏文	密教図像と造像 —円珍感得の園城寺黄不動明王画像について— ……………	71-94
Seiwa ARAI	Le Cinéma et la Connaissance: L'organisation Néguentropique de L'expérience Filmique ……………	95-115
安藤寿康	大学生の英語経験・英語意識と読解能力……………	117-142
角田多加雄	朱子学派教育論の歴史的展開……………	143-162
森田希一	ホーレス・マンにおける子ども観の成立……………	163-189
広石英記	教育学における存在論的思惟……………	191-208
三井宏隆	Social Science Statement and Doll Test ……	209-257

第九十集

西村義人	「倫理徳としての希望」の可能性……………	1-30
石井敏夫	ベルクソン哲学における悪の問題……………	31-55

Seiwa ARAI	La Problématique de la Conscience dans L'expérience de L'image: Le Cas du Cinéma (Première Partie).....	57-72
竹内治彦	歴史社会学における文化論的アプローチと 段階論的アプローチ.....	73-99
Hiroshi NAMIKI	Pessimism in educational psychology: In the case of ATI research	101-118
森田希一	ホーレス・マンの青年時代に関する一考察 —改宗と人間観の成立をめぐって—.....	119-140
木田邦治	イリイチにおける〈学校化〉と権力.....	141-164
三井宏隆	社会科学と社会政策 —ある大統領諮問委員会の顛末—.....	165-197

第九十一集 文学部創設百周年記念論文集 I

三田哲学会会長 小泉 仰	『慶應義塾大学文学部創設百周年記念論文集』の 発刊に際して.....	1-2
文学部長 小谷津孝明	『哲学』特集号によせて	3-5
出席者 名誉教授 松本 正夫, 同 沢田允茂, 同 大江 晁, 同 中山浩二郎	特集〈座談会〉「三田哲学を語る」	7-32
出席者 西村義人, 小泉 仰, 池上明哉, 小松光彦, 樽井正義, 谷 寿美 (発言順)	特集〈座談会〉「倫理学専攻のこれまでとこれから」	33-51
特集〈エッセー〉「三田哲学と私」		
名誉教授 沢田允茂	三田哲学と私.....	53-54
名誉教授 神山四郎	慶應義塾と歴史哲学.....	55-56

名誉教授	大江 晁	三田哲学と私……………	57-58
名誉教授	中山浩二郎	三田哲学と私……………	59-60
名誉教授	横山寧夫	三田哲学と私……………	61-62
名誉教授	仲 康	ダーラム事始め —日本の国際化によせて—……………	63-65
名誉教授	小川 隆	三田哲学と私……………	66-67
名誉教授	西谷謙堂	三田哲学会へのお便り……………	68-68
名誉教授	斎藤幸一郎	三田哲学と私……………	69-70
名誉教授	西村 皓	三田哲学と私……………	71-72
三浦和男		ヘーゲルの自由論……………	73-94
間瀬啓允		ジョン・ヒックの宗教実在論……………	95-103
西脇与作		進化論を比喩から救うために……………	105-124
石黒ひで		ことばと世界のつながりについて……………	125-141
岡田光弘		「普遍学」の夢と現実 —論理推論体系の可能性を求めて—……………	143-161
小泉 仰		福沢諭吉の学問論……………	163-180
池上明哉		レヴィナスの「存在」観……………	181-200
小松光彦		自由と道徳法則との同一性（分析性）？ —カントにおける実践哲学の基礎づけの課題をめぐって、その三—……………	201-223
樽井正義		インフォームド・コンセントの倫理……………	225-242
西村義人		〈責任負担力としての希望〉の〈原点〉……………	243-261
Суми ТАНИ		К вопросу о концепции человека в Оуддийском учении “Юисики” и о концепции человека в философской мысли В. С. Соловьева (1)……………	263-274
八代修次	本郷 新	〈戦没学生記念像わだつみのこえ〉……………	275-290

海津忠雄	ブルクハルトとヴェルフリン —絵画的建築の問題—……………291-312
末吉雄二	中世ヨーロッパの古代ローマに対する関心への一視点 —マギステル・グレゴリウスの『首都ローマの驚 異の物語り』を中心にして—……………313-328
紺野敏文	「仁和・寛平期」の彫刻 —9世紀後半の様相—……………329-352
宮家 準	熊野別当系図の社会的意味……………353-374
山岸 健	椅子と人間 —居住空間の様相—……………375-402
青池慎一	オピニオン・リーダー研究における諸論点 —オピニオン・リーダー研究ノート—……………403-414
平野敏政	高齢化社会と家族的適応……………415-437
鈴木正崇	儀礼的殺害の論理 —羽黒山松例祭—……………439-461
岡原正幸	ポスト・モダンな感じ —感情文化と社会変容—……………463-484
榊 博文	情報処理の単純化の為の枠組としての「態度」 及び「文化的文脈」……………485-506
渡辺 茂	動物は外界の情報を知りたがるか……………507-525
田中克佳	「寺子屋」の起源と語源をめぐって……………527-546
安藤寿康	教育の中の遺伝……………547-566
三井宏隆	社会科学と社会政策 (II) —Messe Commission について—……………567-590
星野慎吾	ベルクソンの哲学的生命観 II ……………591-611

第九十二集 文学部開設百周年記念論文集 II

三田哲学会会長 海津忠雄

『慶應義塾大学文学部開設百周年記念論文集 II』

発刊の辞…………… 1-2

語る名誉教授たち 林 銈蔵 (誌上参加), 小川 隆, 印東太郎

聞く現役たち 古崎 敬, 佐藤方哉, 坂上貴之

特集〈座談会〉心理学専攻と三田哲学

—そして心理学と哲学—…………… 3-21

出席者 村井 実, 斉藤幸一郎, 西村 皓

司 会 安藤寿康 注・資料作成 真壁宏幹

特集〈座談会〉三田哲学と教育学…………… 23-53

宮坂敬造 特集〈座談会〉(概要報告) 人間科学専攻をふりかえる

南 隆男 —10年間の活動抄録— …………… 55-103

有働勤吉 人間的徳から対神徳へ

—トマスの徳論の一考察—……………105-133

中野博司 コンチェルティーノとディヴェルティメント

—ハイドンのチェンバロ四重奏曲をめぐって—

……………135-148

前田富士男 結晶としての造形

—パウル・クレーにおけるモデルネ (I)— ……149-174

美山良夫 フランスにおけるツァルリーノ受容の一側面

—旋法と音楽の effet を中心に—……………175-189

佐藤方哉 心理学はどこまで発展を遂げたか

—教科書に着目しての一考察—……………191-210

坂上貴之 行動観察における記録法と行動指標……………211-236

並木 博 Yerkes-Dodson law revisited: The implication

of the age-old law in the light of a cognitive theorizing ……………237-256

石崎秀和 「地域性に制約される比較教育学」の試み ……257-277

第九十三集

堀江 聡	プロティノスの神をめぐるって語ること……………	1-33
浅見昇吾	カントにおける媒介の問題……………	35-53
田村京子	自然科学と生活世界……………	55-78
石井敏夫	ベルクソンのキリスト教理解 —彼の宗教思想の方法論上の手続きはどのような ものか—……………	79-105
大野晃徳	神話からテキストへ —言語活動の倫理性を巡るロラン・バルトの思索— ……………	107-129
海津忠雄	ある画家の最期 —父ハンス・ホルバインはどこで死んだか—……………	131-149
Seiwa ARAI	La Problématique de la Conscience dans L'expérience de l'Image: Le Cas du Cinéma (Deuxième Partie) ……………	151-172
木田邦治	自由, 因果性, 帰責 —〈主体〉生成の基底(1)—……………	173-199
水川喜文	「因果的説明」のポリティックス(I) —エスノメソドロジエ的視点から—……………	201-222
菅野博史	意味とコミュニケーション —ルーマンのシステム理論的アプローチ—……………	223-248
岩永真治	アフター・フォーディズム時代の空間的諸形態 —「情報型発展様式」のインパクト—……………	249-278
三井宏隆	Spectator violence としてのフーリガニズム ……………	279-307
星野慎吾	ベルクソンの哲学的生命観 IV ……………	309-330
中垣 啓	領域固有性と理解(その一) —発生的認識論と認知心理学研究(3)—……………	331-372

Andrew DUFF-COOPER

Remarks on Some Systematic Aspects of
Forms of Life373-396

M. H. ГРОМОВ

Сеятая София Премудрость Божия в
Древней Руси.....397-418

第九十四集

堀江 聡 『エンネアデス』・第六論集・第六論文
—プロティノスの数の形而上学—..... 1-23

岡原正幸 <出会い> と <まよい>
木田邦治 —荻野恒一論 1— 25-46

尾川丈一 「知的生産性について」 47-77

中垣 啓 領域固有性と理解 (その二)
—発生的認識論と認知心理学研究 (3)— 79-113

東 敏徳 教職の専門性について.....115-138

山元有一 E. シュプランガーにおける全体性の問題 (II)
—全体性の陶冶的構造—.....139-161

特集「審美学百年」記念論文集 美学美術史学の現在

海津忠雄 芸術家賞賛のトポス.....163-179

紺野敏文 「再生」の文化
—日本人の造形と美意識—(1) 遷宮について ...181-204

末吉雄二 ジョット=アルノルフォ関係論の検証.....205-224

前田富士男 色彩論のイデオロギー
—オストヴァルトと1910年代の芸術と制度—
.....225-243

加藤明子 捻じれ柱のモチーフの成立とその表現の諸相
.....245-264

西川尚生 M. ハイドンの交響曲におけるフガート・フィナーレ
—Sh. 22 の楽曲分析を中心に—265-286

第九十五集

Mitsuhiro Okada

Note on the Strong Normalizability of the Logic
with Self-Referential Predicates 1-14

河野哲也 主観の空間性と心身問題
—幻影肢と身体図式に関する哲学的考察— 15-37

金子善彦 アリストテレスの質料概念と「裸の基体」説
—『形而上学』Z3, 1029^a 10-26「抽き去り」が
示唆するもの— 39-57

北村憲司 初期ルカーチにおける全体性概念 59-84

森 庸 社会契約としての道徳
—D. ゴディエの道徳理論— 85-109

石井敏夫 ベルクソンの「閉じた社会」論 111-135

Nicole Coolidge ROUSMANIERE

Visions of the 'Other' in Seventeenth Century
Japanese *Fuzoku-ga* 137-152

松井孝雄 空間の意味と記憶表象 153-173

安藤寿康 双生児統制法の研究
—人間行動遺伝学の展望(1)— 175-209

三井宏隆 妊娠中絶権をめぐる論争について 211-240

第九十六集

安岡直 初期ルカーチにおける全体性概念 1-27

石井敏夫 ベルクソニズムにおける悪の問題再論 29-50

海津忠雄 美術史家澤木四方吉の都市論 51-76

岡原正幸 感情社会学の主題系, 古典から: Max Weber
..... 77-101

山岸美穂	音風景と音の社会学 —日常生活と〈音〉世界—……………	103-128
望月 要	人のスケジュール誘導性行動……………	129-153
安藤寿康	遺伝にとって環境とは何か —人間行動遺伝学の展望 (2)— ……	155-183

第九十七集

河野哲也	アンドレ・ジャコブ氏を迎えて —三田哲学講演会, A. ジャコブ氏「時間の問題 性」の原稿翻訳と講演会報告—……………	1-12
西村義人	現代医療・医学における希望問題 —デス・エデュケーション, ターミナル・ケア, 精神神経免疫学—……………	13-40
成田和信	功利主義倫理学とパーソナル・インテグリティ ……………	41-63
森 庸	契約主義の二つの根拠……………	65-88
山岸 健	プロヴァンスの風景と光景 —環境世界と人間—……………	89-120
榊 博文	認知の陰陽理論序説 (その1) —コミュニケーション・ディスクレパンシーと 意見変容をめぐる—……………	121-153
尾原裕美 小谷津孝明	幼児期健忘に関する理論と今後の展望……………	155-172

第九十八集

西脇与作	心的なものとその実現……………	1-26
牛 枝 恵	中国の美的範疇論 —「中和の美」の説— ……	27-44
金山弘昌	ベルニーニのルーヴル宮第一計画案と デコールムの概念……………	45-69

内藤浩之	万徳山白蓮結社と阿弥陀信仰をめぐって —高麗時代後期仏教美術の信仰的背景—	71-94
榑博文	説得的コミュニケーションがマイルドな 立場を主張した場合のコミュニケーション・ ディスクレパンシーと意見変容の関係 —認知の陰陽理論による予測—	95-121
伊東裕司 高山博 日比谷潤子 渡辺茂 中垣啓	顔と声の関連性の判断：人物の同一性について 認知心理学はどこへ行く？ —発生的認識論と認知心理学研究(4)—	123-139 141-170

第九十九集

堀江聡	プロティノス第39論攷の神学	1-26
西村義人	マルセルの希望の哲学と医学・看護学 —現代医療・医学における希望問題 その2—	27-56
牛枝恵	中国の美的範疇 —「気韻」の説—	57-85
西川尚生	W. A. モーツァルトと M. ハイドンの セレナード、ディヴェルティメント類 におけるバスの編成をめぐって	87-117
ユルゲン・エルカース (斎藤太郎, 真壁宏幹 訳)	美的主体性と現代 (モデルネ) 芸術 —人格形成史的視点からの考察—	119-160
渡辺弘	江戸時代の学習思想 (その1) —陽明学派の人々を中心に—	161-181

1990 別冊文献案内

有働勤吉	西洋哲学倫理学史 I (古代・中世)	1-13
------	--------------------	------

三浦和男	西洋近世哲学史・基本文献(1) —17世紀の哲学—	15-49
西脇与作	科学哲学を知るための私的な文献案内	51-59
間瀬啓允	宗教哲学	61-71
樽井正義	倫理学の基本文献	73-79
西村義人 谷 寿美		
美学美術史研究室編		
	美学美術史学	81-140
山岸 健 岡原正幸	会社学への読書案内	141-149
青池慎一	社会心理学とコミュニケーション研究に関する基 礎的文献	151-155
宮家 準 鈴木正崇	文化人類学及びその関連文献	157-168
心理学研究室編		
	心理学の基本文献	169-185
教育学研究室編		
	教育学の文献案内	187-235
宮坂敬造	人間科学文献案内	237-257
1992 別冊文献案内		
有働勤吉	西洋哲学倫理学史(1) 古代・中世	1-10
三浦和男	(2) 17世紀の哲学	11-44
石黒ひで	(3) 17・18世紀の哲学	45-49
石黒ひで	行為の哲学	51-52
石黒ひで	知識の哲学	53-54
西脇与作	科学哲学を知るための私的な文献案内	55-66
間瀬啓允	宗教の哲学	67-76

池上明哉	倫理学の基本文献	77-86
小松光彦		
樽井正義		
谷寿美		
西村義人		

美学美術史研究室編

	美学美術史学	87-137
山岸健	社会学への読書案内	139-147
平野敏政		
岡原正幸		
青池慎一	社会心理学とコミュニケーション研究に関する 基礎的文献	149-153
宮家準	文化人類学の文献案内	155-176
鈴木正崇		
宮家準	日本民俗学の文献案内	177-202
鈴木正崇		

心理学研究室編

	心理学の基本文献	203-215
--	----------	---------

教育学研究室編

	教育学の文献案内	217-263
--	----------	---------

人間科学専攻

	人間科学の文献案内	265-276
--	-----------	---------

1994 別冊文献案内

西洋哲学倫理学史

牛田徳子	(1) 古代・中世哲学	1-17
中川純男		
堀江聡		
三浦和男	(2) 17世紀の哲学	19-52
石黒ひで	(3) 17・18世紀の哲学	53-58
石黒ひで	行為の哲学	59-60

石黒ひで	知識の哲学	61-62
西脇与作	科学の哲学	63-74
間瀬啓允	宗教の哲学	75-84
岡田光弘	論理学入門のための Personal Guide	85-94
池上明哉	倫理学の基本文献	95-106
小松光彦		
樽井正義		
谷 寿美		
西村義人		
美学美術史研究室編		
	美学美術史学	107-165
山岸 健	社会学への読書案内	167-175
平野敏政		
岡原正幸		
青池慎一	社会心理学とコミュニケーション研究に関する 基礎的文献	177-181
宮家 準	文化人類学の文献案内	183-204
鈴木正崇		
宮家 準	日本民俗学の文献案内	205-230
鈴木正崇		
心理学研究室編		
	心理学の基本文献	231-243
教育学研究室編		
	教育学の文献案内	245-291
人間科学専攻		
	人間科学の文献案内	293-308